

# 2022年度事業計画

2022年度泉屋博古館は以下の事業を行います。

東京館は、増改築工事をへて本年3月にリニューアルオープンの予定です。

## 1. 保存公開事業

### (1) 展覧会

京都本館は、青銅器展、企画展について、下表の通り開催する。

#### 1) 青銅器館

展覧会名	期間・日数	予算(千円)
本館青銅器展 中国青銅器の時代 第1室 青銅器名品選 第2室 青銅器の種類 第3室 中国古代の説話と文様 第4室 青銅文化の展開	企画展と同じ (160日)	3,300
特別企画 住友財団修復助成モンゴル漆器	3/26～5/15	1,100
開館日数計	160	4,400

#### 2) 企画展示室

展覧会名	期間・日数	予算(千円)
「近世の文人画 一上方 文雅の交わり(仮称)」 江戸時代に、全国を席卷したのが、文学や書とともに 味わう文人画。住友家収集の名品を中心に、絵画をめ ぐる当時の教養人たちの交流にも注目します	3/26～5/15 (44日)	3,400
「漆 一東洋の美を彩る技」～堆黄盆修理完成記念～ 東洋の美術を様々なところで彩ってきた素材、漆。そ の魅力を受容、技法、修復の視点から紹介します。	5/28～7/3 (32日)	4,300
「生誕150年記念 板谷波山展」～日本近代陶芸のパイ オニア～(仮称) 彫刻技法を取り込み独自の釉薬開発と焼成手法によ り、近代陶芸界をリードした板谷波山の世界を新たな 視点から検証します。	9/3-10/23 (44日)	8,900
「特別展 木島櫻谷一旅・風景・山水(仮称)」 近代京都の日本画家木島櫻谷。写生を踏まえた近代的 風景から独特の観念的山水まで、変遷しつつ生涯描き 続けた山水画。底流にある精神世界を探ります。	11/3～12/18 (40日)	9,400
開館日数計	160	26,000

東京館は、企画展について、下表の通り開催する。

#### 3) 東京館

展覧会名	期間・日数	予算(千円)
リニューアル・プレオープン 「木島櫻谷の四季屏風と近代の花鳥図屏風」 大阪茶臼山住友本邸を飾った花鳥図屏風を特別公開。	1/4～1/6 (3日)	1,300

泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展Ⅰ 「日本画トライアングル」 大阪、京都、東京の各画壇で活躍した日本画家たちの 知られざる名作を展覧し、地域に根ざした日本画の魅 力とその多様性を紹介します。	3/19～5/8 (44日)	4,800	
泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展Ⅱ 「光陰礼讃—モネからはじまる住友洋画コレクション」 光を追い求めた印象派と、陰影による実在感を追求し た写実派の「光陰」二つの流れから滋養を受けて展開 した、近代洋画の数々を紹介します。	5/21～7/31 (62日)	4,300	
泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展Ⅲ 「古美術逍遙 — 東洋へのまなざし」 日本・東洋の古代から近世までの絵画や工芸の名品を 展覧し、歴史の中で継承されてきた美を紹介します。	9/10～10/23 (38日)	5,700	
特別展「生誕150年記念 板谷波山展」 彫刻技法を取り込み独自の釉薬開発と焼成手法によ り、近代陶芸界をリードした板谷波山の世界を新たな 視点から検証します。	11/3～12/18 (40日)	8,000	
開館日数計		187	24,100

なお東京館では、リニューアルオープン後の新たな試みとして上記企画展とは別に、当館コレクションの形成の歴史や特徴を通して、その価値を後世に伝える小規模企画展示を行う。

## (2) 収集事業

当館コレクション充実のため、当館収蔵品と関連のある作品収集を開始する。近世末から近代にかけての絵画、工芸を対象とし、購入、寄託、受贈の検討を進める。

## (3) 修復事業

以下の修復及び調査を行う。

- ・重要文化財「木彫阿弥陀如来坐像」（2021年10月事前調査完了）  
費用 300万円弱（23年支出）、国庫助成予定、住友財団助成申請予定
- ・茶道具の仕覆、御物袋など付属品の修復（予算 60万円）
- ・書画工芸の収納箱補修（予算 20万円）
- ・青銅器の現状調査（予算 20万円）
- ・巡回展にむけた洋画の小修繕（予算 55万円）

## (4) 管理事業

館蔵品データベースの新システム移行につき、2023年度完成を目処に、2022年度中に現行データベース（ファイルメーカー）の内容を精査・整理し、移行と運用におけるルール（アップする情報の種類、画像の扱いなど）を定める。業者に提供するデータ（画像、関連資料など）の取りまとめを行う。

## 2. 調査研究事業

### (1) 館藏品基礎調査研究

館活動の根幹となる館藏品の基本的調査研究を実施する。

テーマ	期間
<p>「茶道具の調査研究」（森下） 館蔵の茶道具について、新収品を中心に、①付属品の再調査、②購入記録並びに茶会記との照合を行い、江戸期から大正期に至る茶道具のコレクション形成史をまとめる。</p>	2020年度より継続
<p>「近代工芸作品の調査研究」（森下） 板谷波山「葆光彩磁珍果文花瓶」（重要文化財・分館所蔵）完成に至る過程（技法、釉薬、意匠）について調査研究を行う。出身地である茨城県内の個人所蔵作品、田端で発掘された陶片作品について調査を実施。</p>	2021年度より2年間
<p>「コレクション形成における近代煎茶文化の影響に関する基礎的研究」（竹嶋） 二年度は、茶会記に登場する日本書画のデータベース化を実施。近隣の茶会記所蔵館での調査も予定。</p>	2020年度より3年間
<p>「館蔵印材の基礎研究」（竹嶋） 館蔵印材の中には、他の館藏品（書画・工芸）に捺されているものがある。その情報を集積し、印材の制作時期の判定およびコレクション形成史の検討に役立てる。</p>	2022年度より3年間
<p>「泉屋博古館記録資料のアーカイブ化」（竹嶋） 館の歴史を物語る設立以来の資料の整理に着手する。具体的には映像資料、建築資料のデジタル化と各資料に関する聞き取り調査を実施予定。</p>	2022年度より2年間 (本年度予算 320 千円)
<p>「館蔵書画の表装裂のデータベース作成」（実方） 館蔵書画に用いられる表装裂について材質、組成、文様などの基礎情報構築を専門家の協力を得て進める。さらに伝来や装丁者など表装の成り立ちの調査も行う。</p>	2020年度より3年間
<p>「館蔵洋画の調査研究」（野地） 館蔵洋画・彫刻に関しては、河久保正名や仙波欣平など、優品が収蔵されながら見落とされてきた作家・作品が散見される。また岸田劉生など近年の研究成果を踏まえ多視点からの見直しを推進する。</p>	2020年度より5年間
<p>「館蔵日本画及び洋画の基礎研究」（椎野） 館蔵の日本画及び洋画に関して、引き続き同時代資料の収集を行い、展覧会出品歴等の基礎情報を確認する。特に明治時代に描かれた肖像画を取り上げ、個々の作品研究に加え、作者の史的位置を検討、その成果を『泉屋博古館紀要』に掲載予定。</p>	2020年度より3年間

「美術品収集経緯研究」（全員） 継続実施している明治大正期住友家美術品収集経緯の研究について、昭和期の購入資料の検討とデータベース化を完成させる。明治～昭和の全データの統合をめざす。	2015年度より7年間
--	-------------

(2) 専門研究

館蔵品に関連する分野において、専門的研究を行い、その成果について、学会発表、紀要などの学術雑誌や図録での公表を行う。

テーマ	期間
「中国先秦時代の社会と文化」（小南） 中国先秦時期（二里头文化から秦漢帝國の成立まで）の社会制度や思想文化になどについて、主として出土文物を資料として、その中国的特質を検討する。	2022年度より5年間
「中国近世の文芸と民衆信仰」（小南） 中国近世の民衆文芸について、文献資料と実地調査とにもとづき、庶民信仰と生活倫理のありかたを探求する。現在、コロナ禍のため現地調査が不可能であるため、壁画墓の画像を通して、二十四孝觀念の時代的な変貌を追求し、中国近世倫理の形成について考える。	2017年度より3年間 (科研費) 2020年度より3年間 (科研費)
「中国古代青銅器鐘の研究」（廣川） 館蔵青銅鐘の考古学的、科学的分析、復元鑄造実験を行うことにより、その製作技法の変遷を検討する。	2021年度より2年間 (本年度予算400千円)
「春秋戦国時代青銅器の生産と流通に関する複合的研究」（山本） 春秋戦国時代青銅器の生産と流通の構造を、考古学的分析・理化学的分析の2方面から明らかにし、背後にある社会構造、贈与儀礼の実態解明を通じて春秋戦国時代像の再構築を目指していく。	2019年度より4年間 (科研費)

(3) 他研究機関との共同調査研究

館蔵品関連分野の研究を多角的に推進するため、他研究機関との共同調査を実施する。

テーマ	期間
「木島櫻谷の調査研究」（実方） 今年度は櫻谷文庫所蔵資料のうち、山水・風景表現について、旧蔵の日中山水画、および写生、マクリなどの資料を同文庫と共同で調査分析、他機関の関連作品調査もあわせて実施、成果を展覧会・図録にまとめる。また継続中の櫻谷宛書簡類整理のまとめをめざす。	2009年度より継続
「中国古代青銅器製作技術の研究」（山本・廣川） 当館所蔵青銅器及び中華民国國立中央研究院歴史語言研究所所蔵青銅器及び鑄型を調査対象として、商代から戦国時代にかけての青銅彝器製作技術の解明を目的とした研究（実物の考古学的調査および三次元計測と、それをもとに	2020年度より5年間 (海外調査に関わる費用は科研費を充当) (本年度予算400千円)

した鑄造実験)を、歴史語言研究所、芦屋釜の里と共同で実施する。	
「中国青銅器の高精度三次元計測データの解析」(廣川) 富山大学芸術学部と共同で実施している青銅器の三次元計測データについて、断面形状および全体厚偏差分布の解析を実施する。	2020年度より4年間 富山大学研究代表科研課題の分担研究
「日本茶道文化史における中国金工品の受容と展開」(山本) 日本中近世の茶道具の中には、その淵源を中国青銅器にまで辿れるものが少なくない。これまで茶道文化史において正当な位置づけがなされていない金工品を中心に実見調査等を行い、唐物受容の新たな一側面を探っていく。茶道資料館・芦屋釜の里との共同調査研究。	2020年度より4年間 研究助成金申請検討中(2021年度より三者協定締結) (本年度予算400千円)
「近代染織史の基礎資料研究」(森下) 館蔵の染織作品を基本資料として、近代の染織品における様式変遷ならびに技法を比較する。東京文化財研究所無形文化遺産部と共同研究を行う。2021年に開催した「型紙と型染」研究会の報告書をまとめ、2023年刊行を目指す。	2020年度より4年間(2015年より継続)
「展覧会芸術研究」(椎野) 近代日本画における主題選択や表現様式を変容させた展覧会の制度に注目し、同時代資料から「展覧会芸術」という言葉の使用範囲と用法を探る。	2020年度より5年間

### 3. 広報普及活動

大学教育への協力事業として非常勤講師出講および見学受入等を行い、さらに社会教育事業の一環としてミュージアムボランティア養成研修を実施する。また展覧会や研究活動をより多くの方に理解して頂くために、関連書籍の刊行および各種講座、講演会、シンポジウム、ワークショップなどを開催する。

内容
(1) 東京館リニューアル・オープンに向けた広報活動 プレオープンでの記者内覧会、VRアプリでのコンテンツ配信および新聞広告等を活用し、事前告知を3月のグランドオープンに向けて行う。
(2) SNS、HPを活用した広報活動 Facebook・Twitter・Instagramの各SNSの特長を活かし、イベント案内等をスピーカーに告知し、展覧会や美術館の魅力をビジュアルで配信する。またレスポンスに対応した新ウェブサイトも活用して、各種情報を早期に発信する。
(3) 講演会・シンポジウムの開催 【本館】外部講師による講演会やシンポジウム、ゲストトークを開催する。 【東京館】新設の講堂における連続講座および、展覧会関連のゲストトークを開催する。

<p>(4) イベントの開催  <b>【本館】</b> ワークショップ、夜間特別観賞会等、各種イベントを計画。  <b>【東京館】</b> ワークショップおよびこども鑑賞会、コンサート等、各種イベントを計画。</p>
<p>(5) 学芸員による列品解説を本館・東京館にて展覧会毎に2~4回程度開催する。</p>
<p>(6) 青銅器解説ボランティアの養成  <b>【本館】</b> ボランティア解説員のレベル維持・研鑽のため、研修を10回程度開催する。</p>
<p>(7) 青銅器鑑賞コンテンツの制作  <b>【本館】</b> 3Dデータ、VR画像を利用した双方向体験型プログラムの開発</p>
<p>(8) 大学への出講  <b>【東京館】</b> 野地（成城大学、通期）</p>
<p>(9) 近隣美術館等との連携  <b>【本館】</b> 櫻谷文庫との公開連携。野村美術館との「京都東山 美術館さんぽ」継続。  <b>【東京館】</b> 大倉集古館・菊池寛実記念智美術館との連携推進。港区ミュージアムネットワークへの継続加盟および、ぐるっとパス2022へ再加入。</p>
<p>(10) 紀要・図録の発行  ①「泉屋博古館紀要」第38巻 500部（2022年12月）  ②「名品撰(仮)」青幻舎より刊行 4,000部のうち3,000部買取（2022年3月）  ③「泉屋博古 洋画」図録 2,000部（2022年5月）  ④「生誕150年記念 板谷波山展」巡回展図録 600部買取（2022年4月）  ⑤「特別展 木島櫻谷」図録 3,000部（2022年11月）</p>
<p>(11) ミュージアムグッズの開発・制作  東京館リニューアルに伴うショップスペースの拡充を契機とし、館蔵作品モチーフのミュージアムグッズを複数種開発。作品の魅力を様々な形で発信する。</p>

#### 4. 施設への対応

項目	内容	予算(千円)
本館の中長期保全計画策定	築50年を経た本館について、建物劣化診断調査および今後30年間を見据えた中長期保全計画の策定、施設の現状利用状況を踏まえた将来に向けての改修計画の検討を実施する。	7,500

以上